

審 査 結 果 の 要 旨

本研究では島根県海士町の65歳以上の高齢者を対象に、パーキンソニズムの有病率や関連因子を調査した。729名中70名にパーキンソニズムを認め、粗有病率は9.6%であった。原因疾患の内訳は、血管性パーキンソニズム21名、Lewy小体病18名、Alzheimer型認知症16名、特発性正常圧水頭症5名であり、パーキンソニズム群では認知症者が多かった。本論文の内容は、高齢化地域住民でのパーキンソニズムの原因疾患を明らかにし、認知機能低下もパーキンソニズムに関連していることを示している。高齢化社会でのパーキンソニズムに対する介入の重要性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。